千葉県教育振興財団調査報告第593集

主要地方道多古笹本線
埋蔵文化財調査報告書4

― 多古町飯土井台遺跡 ―

平成20年3月

千葉県県土整備部

財団法人　千葉県教育振興財団

主要地方道多古笹本線
埋蔵文化財調査報告書 4

— 多古町飯土井台遺跡 —

序　文

財団法人千葉県教育振興財団（千葉県文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県教育振興財団調査報告第593集として、千葉県県土整備部の主要地方道多古笹本線改良事業に伴って実施した多古町飯土井台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器、弥生時代や古墳時代の住居跡、中世の溝状遺構が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成20年３月

財団法人千葉県教育振興財団

理事長　福　島　義　弘

凡　例

1　本書は、千葉県県土整備部による主要地方道多古笹本線改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書であり、平成２年度刊行の八日市場市小高遺跡調査報告書、平成７年度刊行の主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書２（－干潟町池尻遺跡・茄子台遺跡－）、平成８年度刊行の主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書３（－干潟町道木内遺跡・椎木遺跡－）に次ぐシリーズ第４集目である。

2　本書に収録した遺跡は、多古町南中字南台1369－４他及び多古町南中字長谷1461－４他所在の飯土井台遺跡（遺跡コード　347－013）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4　発掘調査と整理作業の実施期間及び担当者は本文中に記述した。

5　本書の執筆・編集は、主席研究員　石倉亮治と上席研究員　土屋潤一郎が行った。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、多古町教育委員会、千葉県県土整備部の御指導、御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第１図　国土地理院発行　1/25,000地形図「多古」（NI－54－19－10－2）・「新東京国際空港」（NI－54－19－10－1）・「岩部」（NI－54－19－6－3）・「八日市場」（NI－54－19－6－4）

第２図　多古町役場作成都市計画図（平成10年修正版）1/2,500

8　周辺航空写真は、京葉測量株式会社による平成18年１月撮影（1/10,000）のものを使用した。

9　本書で使用した挿図の方位は、すべて座標北である。

10　飯土井台遺跡の基本測量は日本測地系仕様による。

11　挿図に使用したスクリーントーン及び記号の内容は、以下の表記による。

焼土　　炭化物　　赤彩

本文目次

第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査の概要 …… 1
　　１　調査の経緯と経過 …… 1
　　２　調査の方法 …… 1
　第２節　遺跡の位置と周辺遺跡 …… 2
　　１　遺跡の立地 …… 2
　　２　周辺遺跡 …… 2
第２章　飯土井台遺跡の調査 …… 7
　第１節　発掘調査の概要 …… 7
　第２節　遺構と遺物 …… 7
第３章　まとめ …… 20
報告書抄録 ……巻末

表 目 次

第１表　２号住居跡出土土器観察表 …… 7
第２表　２号住居跡出土石製品計測表 …… 7
第３表　３号住居跡出土土器観察表 …… 11
第４表　３号住居跡出土石製品計測表 …… 11
第５表　１号方形周溝状遺構出土土器観察表 …… 11
第６表　旧石器時代石器計測表 …… 15
第７表　縄文時代石器計測表 …… 15
第８表　縄文時代・弥生時代土器観察表 …… 17
第９表　溝状遺構（003）出土古墳時代土器観察表 …… 19

挿図目次

第１図　主な周辺遺跡（1/25,000） …… 3
第２図　遺跡の位置（1/5,000） …… 4
第３図　調査区及び発掘区（1/1,000） …… 5
第４図　遺構位置図（1/500） …… 6
第５図　１号住居跡（002） …… 8
第６図　２号住居跡（001） …… 8
第７図　２号住居跡出土遺物（1） …… 9
第８図　２号住居跡出土遺物（2） …… 10
第９図　３号住居跡（009） …… 12
第10図　３号住居跡出土遺物（1） …… 12
第11図　３号住居跡出土遺物（2） …… 13
第12図　１号方形周溝状遺構（008） …… 14
第13図　１号方形周溝状遺構出土遺物 …… 14
第14図　その他の遺物（1） …… 16
第15図　その他の遺物（2） …… 18
第16図　その他の遺物（3） …… 19

図版目次

図版１　航空写真（1/10,000）

図版２　飯土井台遺跡南台地点調査前風景(1)

飯土井台遺跡南台地点調査前風景(2)

飯土井台遺跡長谷地点調査前風景(1)

飯土井台遺跡長谷地点調査前風景(2)

１号住居跡（002）

２号住居跡（001）・溝状遺構（003）

２号住居跡（001）

３号住居跡（009）遺物出土状況

図版３　３号住居跡（009）

１号方形周溝状遺構（008）

１号方形周溝状遺構（008）周構内土坑

１号方形周溝状遺構（008）内土坑遺物出土状況

焼土遺構（005）

溝状遺構（003）

溝状遺構（010）

溝状遺構（011）

図版４　１号住居跡出土遺物

２号住居跡出土遺物

図版５　３号住居跡出土遺物

１号方形周溝状遺構出土遺物

図版６　溝状遺構（003）出土旧石器時代石器

溝状遺構（003）出土縄文時代石器

溝状遺構（003）出土古墳時代遺物

図版７　焼土遺構（005）出土遺物

一括遺物

第１章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査の経緯と経過

千葉県県土整備部は、香取郡多古町南中字南台1369－４他及び多古町南中字長谷1461－４他において主要地方道多古笹本線交通安全施設等整備を計画し、千葉県教育委員会に遺跡の有無を照会したところ当該地先が飯土井台遺跡の一部に含まれることが確認されたため、千葉県教育委員会と協議の結果、事業地区内の埋蔵文化財の取扱いについて記録保存の処置を講ずることとなり、財団法人千葉県教育振興財団文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

飯土井台遺跡の調査は２か年度にわたり実施され、南台地点は平成15年10月１日～平成15年11月28日まで対象面積1,025㎡のうち41㎡の下層確認調査と1,025㎡についての上層本調査をそれぞれ実施した。また、長谷地点は平成17年10月３日～平成17年10月14日まで対象面積314㎡のうち314㎡の上層確認調査と12㎡の下層確認調査のみを実施した。

それぞれの調査は、次の組織と担当者により実施した。

南台地点

平成15年10月１日～平成15年11月28日

調査事務所長　折原　繁、上席研究員　西口　徹

長谷地点

平成17年10月３日～平成17年10月14日

調査事務所長　鈴木定明、上席研究員　西口　徹

また、整理作業は以下の期間及び組織と担当者により実施した。

平成17年11月１日～平成17年11月30日

調査事務所長　鈴木定明、上席研究員　西口　徹

平成19年２月１日～平成19年３月25日

調査事務所長　古内　茂、主席研究員　石倉亮治

平成19年８月16日～平成19年８月31日

調査事務所長　豊田佳伸、上席研究員　土屋調一郎

２　調査の方法

飯土井台遺跡は多古町南中字南台及び字長谷地先に所在する。平成15年度に南中地点で1,025㎡と平成17年度に長谷地点で314㎡を発掘調査した。飯土井台遺跡は主要地方道多古笹本線の改良事業に伴う埋蔵文化財調査で、既存の道路に並行して調査区及び発掘区が設定された。道路は調査時も一般車両の平常通行可能な状態としたため、安全面から路側端の50～100cm程の控えを残して発掘区を設定した。発掘調査に際しグリッドは設定せず、発掘区内に南台地点・長谷地点それぞれに№１～№11、№１～№５と呼ぶ仮設の測量ポイントを設置し、遺構の測量及び遺物の取り上げの際の基準とした。

第２節　遺跡の立地と周辺遺跡

１　遺跡の立地

多古町飯土井台遺跡は、成田国際空港の東南約7.5kmの下総台地中東部に位置し、標高33m前後の洪積台地上にある。飯土井台遺跡のある台地周辺は太平洋に南下する栗山川とその支流である借当川に挟まれており、両河川は本遺跡の所在する半島状の台地南端付近で合流し、九十九里平野を南東に下り太平洋へと注ぐ。両河川によって開析された氾濫原により、周辺の台地は丘陵状に残され低地面との比高差は著しいものとなっている。台地の縁部は急峻な斜面となり、標高５ｍ前後の低地面まで一気に降る。平成15年度調査の南台地点とその東に位置する平成17年度調査の長谷地点は約100m程の距離がある。

２　周辺遺跡（第１図）

飯土井台遺跡①のある台地付近では平成18年度に主要地方道多古笹本線と栗山川の交差する地点の飯土井遺跡②が調査されている。周辺には縄文時代中期～晩期の遺跡である久方貝塚㉚や大堀遺跡㉓があり、駒木台古墳群㉛・塚原古墳群㉝・岩坂遺跡㉜など古墳時代以降の遺跡も周辺の台地上に所在する。また、栗山川、借当川それぞれの流域は低湿地の遺跡が顕著であり、昭和30年代頃から行われた耕地整理や治水事業により多くの丸木舟が検出されている。

昭和60年には借当川と交差する借当橋の掛け替え工事に伴い南借当遺跡⑯が財団法人千葉県文化財センター（現　財団法人千葉県教育振興財団文化財センター）によって調査されている。なお、この調査は昭和60年度文化庁遺跡保存方法検討調査研究の委嘱を受け、遺跡保存方法検討委員会が調査の主体となった。栗山川や借当川流域の低湿地遺跡では丸木舟の出土が度々報じられており、矢摺泥炭遺跡⑮・宮田下丸木舟出土地⑪では縄文時代後期の遺物とともに丸木舟が出土しており、栗山川丸木舟出土地(1)⑨・中野丸木舟出土地(2)⑬・中野丸木舟出土地(3)⑭においても縄文時代のものとされる丸木舟の出土が報告されている。

参考文献

1982 「八日市場市史上巻」八日市場市

1984 「八日市場市矢摺泥炭遺跡発掘調査報告書－独木舟の調査－」 借当川遺跡調査会

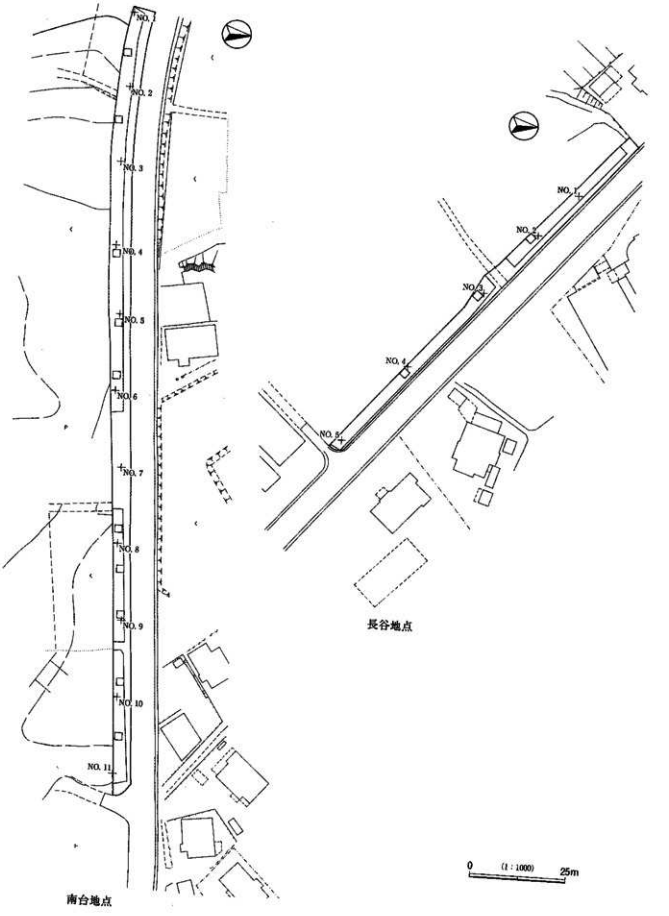
1985 「昭和60年度遺跡保存方法検討委員会資料」 (財)千葉県文化財センター

第１図　主な周辺遺跡（1/25,000）

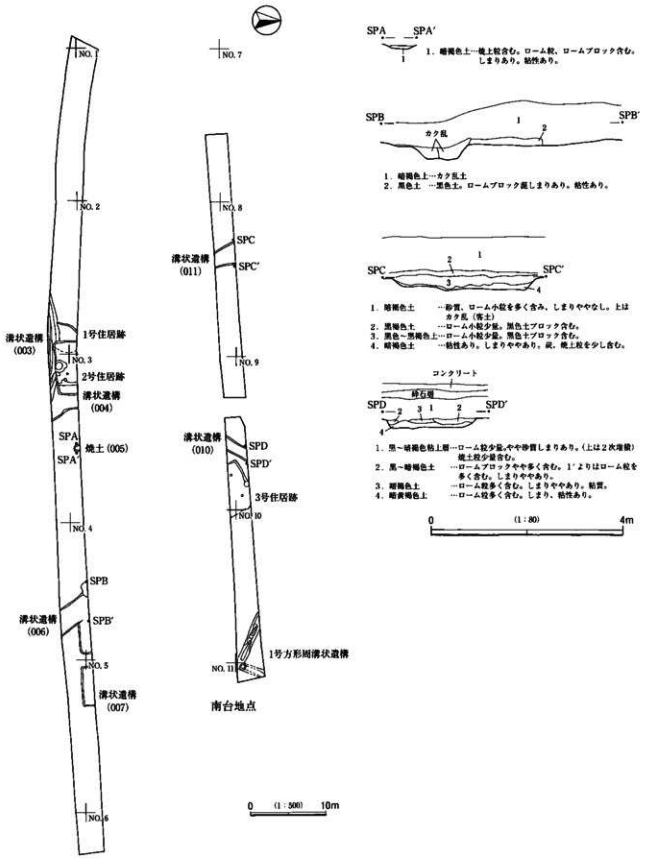
①飯土井台遺跡（本遺跡）　②飯土井遺跡　③新谷２番遺跡　④新谷３番遺跡　⑤広川遺跡　⑥七升遺跡　⑦埋地遺跡　⑧南部田遺跡　⑨栗山川丸木舟出土地(1)　⑩宮田下泥炭遺跡　⑪宮田下丸木舟出土地　⑫中野丸木舟出土地(1)　⑬中野丸木舟出土地(2)　⑭中野丸木舟出土地(3)　⑮矢摺泥炭遺跡　⑯南借当遺跡　⑰園木遺跡　⑱荒句遺跡　⑲舞台遺跡　⑳鴻ノ巣遺跡　㉑後馬遺跡　㉒大堀前原遺跡　㉓大堀遺跡　㉔金原遺跡　㉕吉田遺跡　㉖宿井戸貝塚　㉗塙台遺跡　㉘見堂地遺跡　㉙夏台遺跡　㉚久方貝塚　㉛駒木台古墳群　㉜岩坂遺跡　㉝塚原古墳群

八日市場市
吉田
中村新田
並木
北中
南和田
谷津
北平
金原
南宿当
新田
高田
西谷
南横
台
唐神原
船越
小島
新井
南野辺町
三区
二区
一区
(1：25000)
0
1km

第２図　遺跡の位置（1/5,000）



第３図　調査区及び発掘区（1/1,000）



第４図　遺構位置図（1/500）

第２章　飯土井台遺跡の調査

第１節　発掘調査の概要（第３図・４図）

飯土井台遺跡の調査は、道路に沿ったきわめて狭い調査区の中に安全対策のためさらに幅の狭い発掘区を設定することとなった。南台地点では長さ110m×幅４ｍと長さ75m×幅3.5mの２か所で上層の遺構検出の後、10か所の２ｍ×２ｍグリッドで下層の確認調査を実施した。上層では弥生時代の住居跡１軒、古墳時代の住居跡２軒、方形周溝状遺構１基、溝状遺構３条が検出されたが、下層の遺物は検出されなかった。また、長谷地点では長さ58m×３ｍと40m×3.5mの２か所で上層の遺構確認と３か所の２ｍ×２ｍグリッドで下層の確認調査を実施したが、中世以前の遺構・遺物ともに検出されなかった。

第２節　遺構と遺物

飯土井台遺跡の調査で検出された遺構は発掘区の制約から、その全容を調査することはできなかった。

１号住居跡（002）（第５図　図版４）

１号住居跡は、南台地点西側の発掘区内のほぼ中央にあり、溝状遺構と２号住居跡に削られる状況で検出された。やや長楕円形または隅丸方形の平面形と考えられ、深さ0.3mほどであるが、大半を削平されているため詳細は不明である。２号住居跡の下から検出された同心円状に並ぶ４本の柱跡が１号住居跡のものであるか検討の余地はあるが、出土した遺物は底部に木葉痕をもつ弥生時代後期の土器である。

２号住居跡（001）（第６図～第８図　図版４）

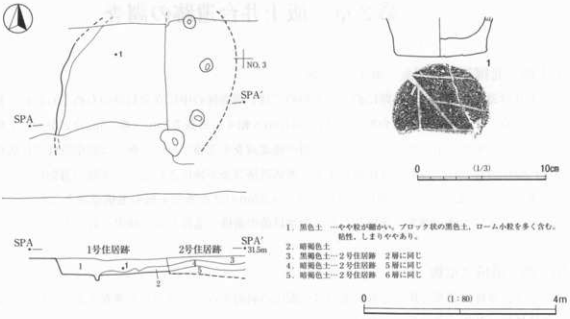
２号住居跡は、１号住居跡と溝状の遺構を掘り込む状況で検出された。規模は南辺が5.6m、西辺の検出範囲３ｍ、深さ0.4m～0.5mで、主軸方位はほぼ南北方向である。本住居跡の北半分は道路の下になり、全容は不明である。南壁のやや東寄り部分にカマドの痕跡が確認され、周辺からは炭化材や焼土塊とともに多数の土器及び滑石製の有孔円板が出土した。出土遺物の詳細は以下の表による。

第１表　２号住居跡土器観察表

遺構	No.	遺物	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	遺存度	色調内面	色調外面	混入物	調整内面	調整外面	遺物番号	備考
7	1	001	土師器	壺	－	－	(5.8)	30%	明褐色	暗褐色	スコリア、石英	ナデ	ヘラケズリ後のナデ	3,28,35	
7	2	001	土師器	杯	(17.0)	－	(3.6)	3%	淡褐色	淡褐色	スコリア、石英	ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	29	赤彩
7	3	001	土師器	鉢	(13.6)	2.5	5.7	60%	淡褐色	淡褐色	スコリア、石英	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	30,32,35	赤彩
7	4	001	土師器	杯	(17.4)	－	(2.6)	3%	淡褐色	淡褐色	スコリア、石英	ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	29,35	赤彩
7	5	001	土師器	杯	(19.0)	－	(3.3)	3%	淡褐色	淡黄褐色	スコリア、石英	ヨコナデ、ナデ	ヘラケズリ後のナデ	29	
7	6	001	土師器	高杯	－	－	(6.8)	30%	淡褐色	明黄色	スコリア、石英	ナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	29	赤彩
7	7	001	土師器	鉢	(34.4)	－	(5.3)	20%	明褐色	明褐色	スコリア、石英	ナデ	ヨコナデ、ナデ	29,35	赤彩
7	8	001	土師器	壺	(12.0)	－	(5.6)	10%	明褐色	明褐色	スコリア、石英、雲母	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	24	
7	9	001	土師器	壺	(15.5)	－	(5.6)	5%	明褐色	明褐色	スコリア、石英	ヨコナデ後の縦方向ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラケズリ後のナデ	2	
7	10	001	土師器	壺	(14.0)	－	(5.5)	5%	淡黄色	淡褐色	スコリア、石英	ヨコナデ、ナデ	縦かいへラケズリ、ヘラケズリ後のナデ	29	
7	11	001	土師器	壺	(19.9)	－	(5.4)	3%	淡褐色	暗褐色	スコリア	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	5	
7	12	001	土師器	壺	(17.6)	－	(16.0)	20%	明褐色	明褐色	スコリア	ヨコナデ、ナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	7	
7	13	001	土師器	甕	－	－	(7.3)	5%	淡褐色	淡褐色	スコリア、石英	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	25	
7	14	001	土師器	小甕型	(11.4)	(5.0)	13.0	60%	淡褐色	淡褐色	スコリア、雲母	ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	10,29	
8	15	001 003	土師器	甕	20.7	(7.9)	27.7	80%	淡赤褐色	淡赤褐色	スコリア、石英	ヘラケズリ後のナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	15,16,22,24,27,29,3－1	
8	16	001	土師器	壺	－	－	(4.2)	5%	明褐色	明褐色	スコリア、石英	ナデ	ヘラケズリ後のナデ	19,29	赤彩
8	17	001	土師器	壺	－	7.9	(8.8)	15%	淡褐色	淡褐色	スコリア、石英、長石	ヘラナデ、ナデ	ヘラケズリ後のナデ	13,14,27	
8	18	001	土師器	壺	(16.7)	9.0	33.6	95%	淡褐色	淡褐色	スコリア、石英、長石	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	15,16,22,26,27	赤彩

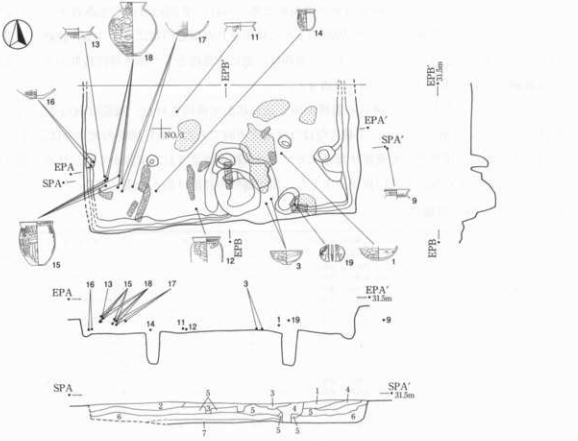
第２表　２号住居跡石製品計測表

遺構	No.	遺物	名称	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	遺物番号
8	19	33	有孔円板	滑石	35.1	19.8	3.9	4.02	13



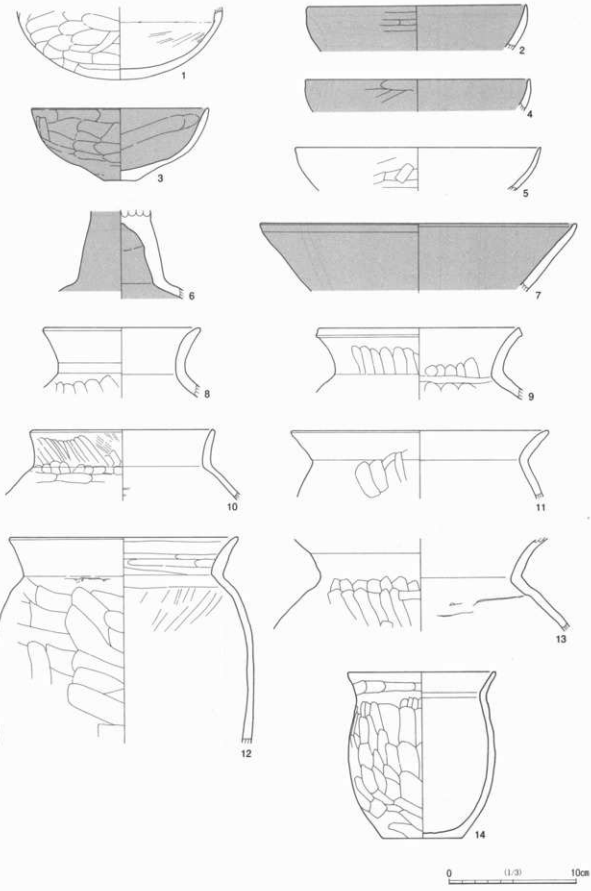
1. 黒色土　―やや粒が細かい。ブロック状の黒色土，ローム小粒を多く含む。粘性，しまりややあり。
2. 暗褐色土
3. 黒褐色土―2号住居跡　2層に同じ
4. 暗褐色土―2号住居跡　5層に同じ
5. 暗褐色土―2号住居跡　6層に同じ

第5図　1号住居跡（002）

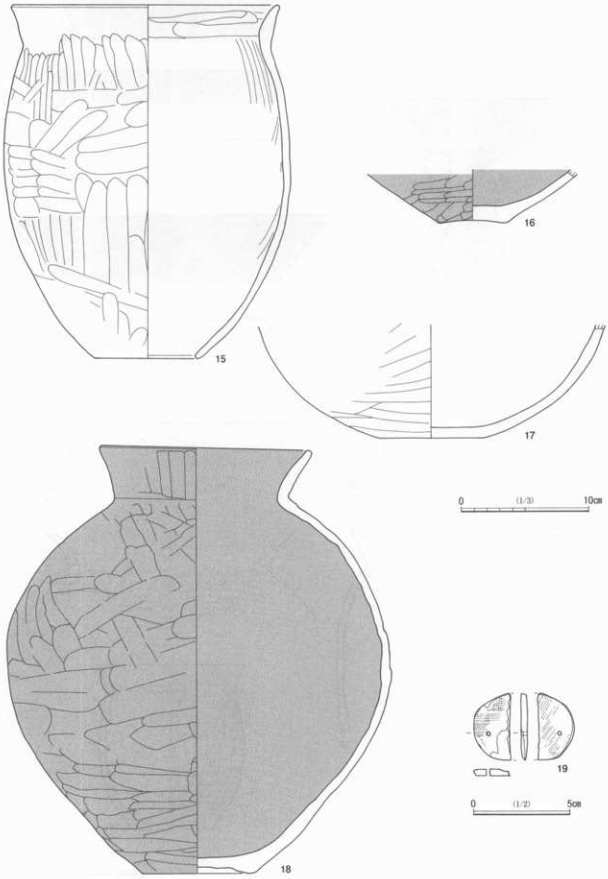


1. 黒褐色土　―若干カク乱ざみではある。炭化粒，焼土粒少量混。ややしまりなし。
2. 黒褐色，砂質土―カク乱，固作土。
3. 黒褐色，砂質土―ややローム小ブロック混りあり。
4. 暗―黒褐色土　―5よりやや黒味強いローム小ブロックやや多く含む。しまりややあり。
5. 暗褐色土　―ローム小ブロック多。炭化粒少量含む。ややしまりなし。
6. 暗褐色土　―ローム粒小ブロックやや多く含む。砂混。しまりややあり。炭化材を多く含む。
7. 暗褐色土　―6より砂混りで，しまりがある。ロームブロックもやや大きい。

第6図　2号住居跡（001）



第７図　２号住居跡出土遺物（1）



第８図　２号住居跡出土遺物（2）

3号住居跡（009）（第９図～第11図　図版５）

３号住居跡は、南台地点東側の発掘区内の中央付近にあり、規模は北西辺が6.0m（推定）、深さ0.4m～0.5mで、主軸方位はほぼN-45°-Wである。発掘区内で検出された範囲は一部であり、２号住居跡と同様に全容は不明である。本住居跡のカマド周辺と北東壁付近には炭化材が多数確認できたほか、床面付近から多くの土器と滑石製の紡錘車が出土した。出土遺物の詳細は以下の表による。

第３表　３号住居跡土器観察表

掲図	No	遺構	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	遺存度	色調内面	色調外面	混入物	調整内面	調整外面	遺物番号	備考
10	1	009	土師器	小型椀	8.7	－	4.5	90%	暗灰褐色	灰黄褐色	スコリア、雲母	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	7	底部線痕あり
10	2	009	土師器	杯	(15.7)	－	(5.2)	5%	淡赤褐色	淡赤褐色	スコリア、石英、雲母	丁寧なナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	7	赤彩
10	3	009	土師器	杯	(17.4)	－	(4.8)	10%	淡赤褐色	淡赤褐色	スコリア、石英、雲母	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	9	赤彩
10	4	009	土師器	甕	(11.7)	－	(4.5)	3%	灰黄褐色	淡赤褐色	スコリア、長石	ヨコナデ、ナデ	ヘラケズリ、ヘラケズリ後のナデ	7	
10	5	009	土師器	甕	(14.0)	－	(3.4)	2%	淡黄褐色	淡黄褐色	スコリア、石英	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	7	
10	6	009	土師器	小型甕	(10.6)	5.1	11.5	100%	赤褐色	淡明褐色	スコリア、石英	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ、ナデ	ヨコナデ後のヘラケズリ、ヘラケズリ後のナデ	8	
11	7	009	土師器	甕	(17.8)	－	(14.8)	30%	淡黄褐色	暗褐色	スコリア、石英、滑石	ヨコナデ、ヘラナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	4,5,6,7	
11	8	009	土師器	甕	19.6	－	(19.7)	90%	淡黄褐色	淡黄褐色	スコリア、石英、長石	ヨコナデ、ヘラナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	2	LI線痕のみ赤彩
11	9	009	土師器	甕	15.1	7.6	25.0	95%	淡黄褐色	淡黄褐色	スコリア、石英	ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ後のヘラケズリ、ヘラケズリ後のナデ	3	

第４表　３号住居跡石製品計測表

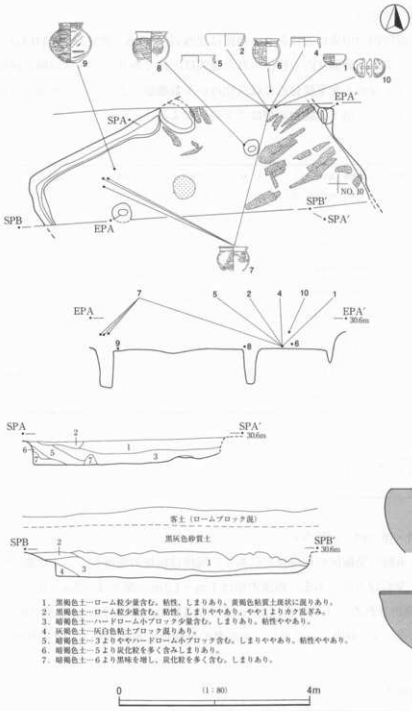
掲図	No	遺構	名称	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	遺物番号
11	10	003	紡錘車	滑石	51.3	31.8	15.2	30.43	13

１号方形周溝状遺構（008）（第12図・第13図　図版５）

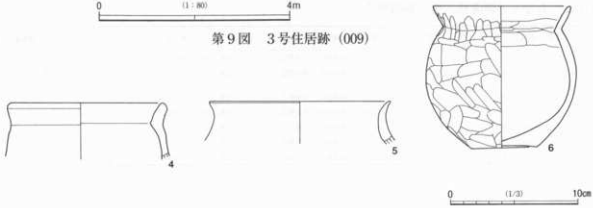
１号方形周溝状遺構は、南台地点東側の発掘区の東端付近にあり、規模は南側の周溝が６m、東側の周溝は３mほどが検出されたのみで、全容は不明である。周溝の幅は１m～1.2m、深さは0.25m～0.3mで、周溝の東南端コーナーには土坑が検出された。土坑は直径0.9mほどの円形で、深さは0.6mほどである。土坑内からは赤彩を施した土師器の甕（7）が出土しており、土坑墓の可能性も考えられる。その他の出土遺物の詳細は以下の表による。

第５表　１号方形周溝状遺構土器観察表

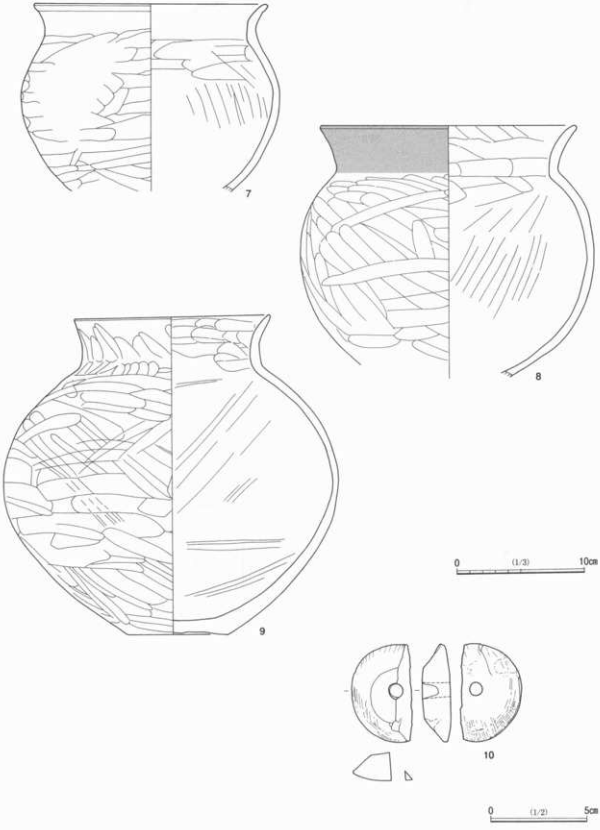
掲図	No	遺構	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	遺存度	色調内面	色調外面	混入物	調整内面	調整外面	遺物番号	備考
13	1	008	土師器	杯	(13.9)	－	(2.3)	2%	淡赤褐色	淡赤褐色	スコリア、石英、長石	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	18	赤彩
13	2	008	土師器	杯	(14.0)	－	(3.2)	2%	橙赤褐色	橙赤褐色	スコリア、石英	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	16	赤彩
13	3	008	土師器	杯	－	－	(5.3)	50%	淡黄褐色	淡黄褐色	スコリア、石英	ナデ	ヘラケズリ後のナデ	1,16,18	
13	4	008	土師器	杯	17.5	－	6.3	50%	橙赤褐色	橙赤褐色	スコリア、石英、雲母	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	11	赤彩
13	5	008	土師器	高杯	－	－	(3.2)	5%	淡褐色	淡褐色	スコリア、石英、雲母	ナデ	ヘラケズリ後のナデ	1	赤彩
13	6	008	土師器	高杯	－	(8.8)	(2.0)	2%	明黄褐色	明黄褐色	スコリア、石英	ナデ	ヘラケズリ後のナデ	1	赤彩
13	7	008	土師器	甕	－	－	(4.9)	5%	淡赤褐色	淡赤褐色	スコリア、石英	ヨコナデ、ナデ	ヘラケズリ後のナデ	5	赤彩



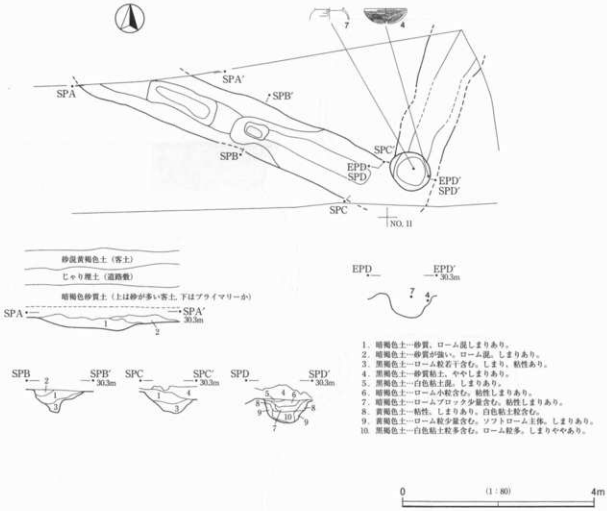
第９図　３号住居跡（009）



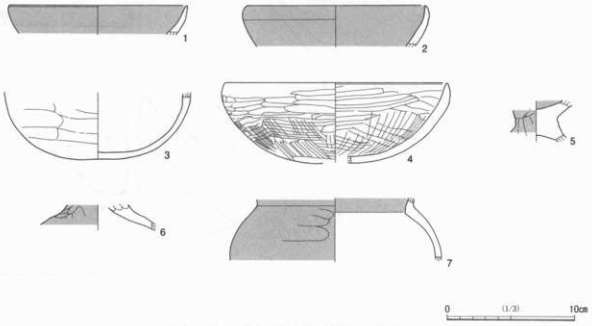
第10図　３号住居跡出土遺物（1）



第11図　3号住居跡出土遺物（2）



第12図　1号方形周溝状遺構（008）



第13図　1号方形周溝状遺構出土遺物

その他の遺構と遺物（第４図・16図　図版６）

飯土井台遺跡では、５条の溝状遺構（003・006・007・010・011）が検出されている。このうち003の溝状遺構は、１号住居跡を削り込むが２号住居跡には削り取られており、年代的には縄文時代以降古墳時代後期くらいまでのものと考えられるが、南台地点東側発掘区の発掘区の南縁に曲線状にわずかに確認されたのみであり、詳細は不明である。遺物（１～７）は総て流入したものと考えられ、溝状遺構の年代を決める手掛りとはならない。他の溝状遺構からは出土遺物は検出されなかった。

以下には溝状遺構及び遺構内の出土であっても流れ込みの資料と思われる遺物を時代別に列挙する。

旧石器時代の石器（第14図　図版５）

飯土井台遺跡の旧石器時代の遺物は、下層確認グリッド内では検出されずいづれも溝状遺構内の出土であり、出土層位は不明である。１は基部加工がやや不安定なチャート製のナイフ形石器、２は同じ材質の楔形石器で、他は剥片である。出土遺物の詳細は以下の表による。

第６表　旧石器時代石器計測表

挿図	No	出土位置	遺物番号	器　種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石　材
14	1	溝状遺構（003）	1	ナイフ形石器	27.8	13.5	7.6	2.43	チャート
14	2	溝状遺構（003）	1	楔形石器	17.2	10.5	6.1	1.49	チャート
14	3	溝状遺構（003）	1	剥片	18.6	33.4	5.4	3.54	凝灰岩
14	4	溝状遺構（003）	1	小剥片	21.8	19.1	5.8	2.37	安山岩Ａ
14	5	溝状遺構（003）	1	剥片	24.3	23.2	5.9	2.35	安山岩Ａ
14	6	１号住居跡	29	剥片	18.0	15.9	4.7	0.88	石英

安山岩Ａ：ガラス質の黒色系安山岩で風化が著しく剥離面は明るい灰色で、表面はザラついている。

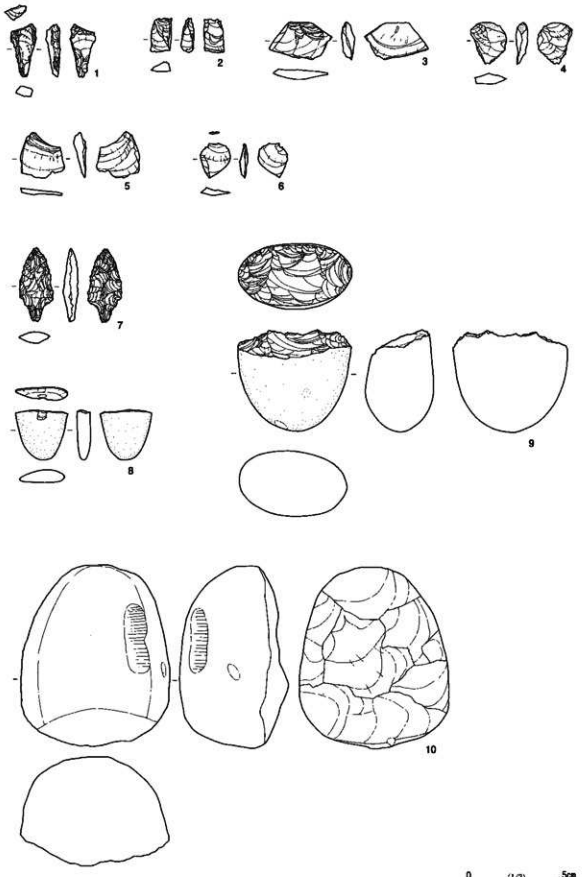
縄文時代の石器（第14図　図版５）

飯土井台遺跡の縄文時代の石器は４点出土しており、７は珪質頁岩製の有舌尖頭器で両面から細かな剥離を重ね先端部から側面に至る鋭利な稜線を作り出している。出土遺物の詳細は以下の表による。

第７表　縄文時代石器計測表

挿図	No	出土位置	遺物番号	器　種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石　材
14	7	一括	1	有舌尖頭器	38.5	17.9	7.3	4.81	珪質頁岩
14	8	溝状遺構（003）	1	石斧	26.8	27.8	7.0	8.45	凝灰岩
14	9	１号住居	4	石核	52.3	60.1	35.5	152.3	メノウ
14	10	１号住居	19	磨石	94.8	78.5	58.6	481.3	安山岩Ａ

安山岩Ａ：ガラス質の黒色系安山岩で風化が著しく剥離面は明るい灰色で、表面はザラついている。



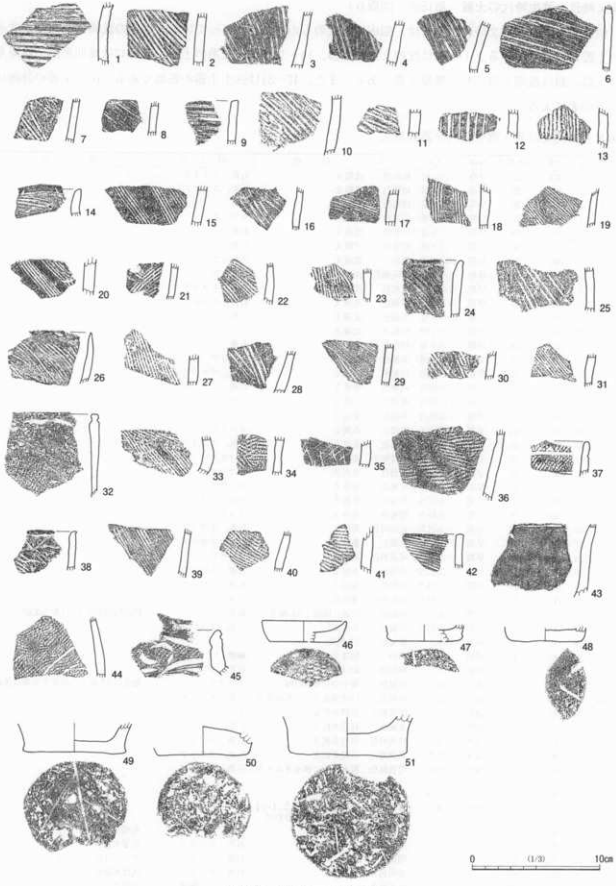
第14図　その他の遺物（1）

縄文時代・弥生時代の土器（第15図　図版6）

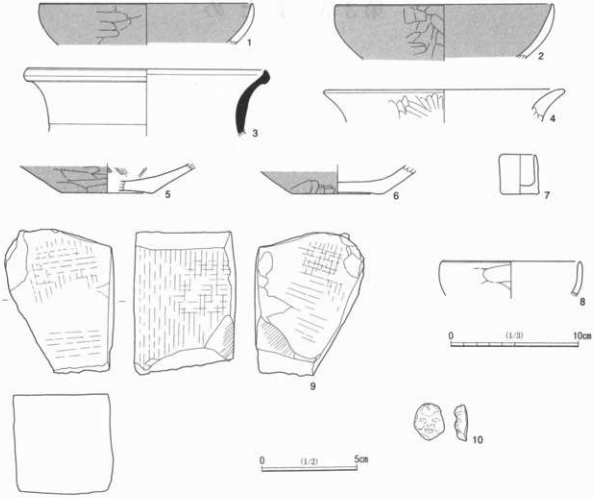
飯土井台遺跡の縄文時代の土器は、幅広い時代のものが入り交じっているが早期の沈線文系と条痕文系の土器が目立っている。1～13は沈線文系の土器、14～32は条痕文系の土器、33～43は前期黒浜～浮島系の土器、44は後期土器、45は晩期土器である。また、47～51は弥生土器の底部である。出土土器の詳細は以下の表による。

第8表　縄文時代・弥生時代土器観察表

挿図	No.	遺構	遺物番号	時期	型式名	色調	特徴	混入物	備考
15	1	001	22	早期	田戸下層	暗褐色	沈線文	石英、スコリア	
15	2	001	25	早期	田戸下層	暗褐色	沈線文	石英、スコリア	
15	3	001	26	早期	田戸下層	暗褐色	沈線文	石英	
15	4	001	27	早期	田戸下層	暗褐色	沈線文	スコリア	
15	5	001	28	早期	田戸下層	暗褐色	沈線文	石英	
15	6	001	56	早期	田戸下層	暗褐色	沈線文	石英、スコリア	
15	7	001	29	早期	田戸下層	黒色	沈線文	スコリア	
15	8	001	32	早期	田戸下層	暗灰褐色	沈線文	スコリア	
15	9	001	57	早期	田戸下層	暗褐色	沈線文	石英、スコリア	
15	10	003	8	早期	田戸下層	明褐色	沈線文	石英、スコリア	
15	11	003	24	早期	田戸下層	黒褐色	沈線文	石英、スコリア	
15	12	003	26	早期	田戸下層	暗褐色	沈線文	スコリア	
15	13	003	28	早期	田戸下層	暗褐色	沈線文	石英	
15	14	001	24	早期	茅山相当	茶褐色	条痕文	スコリア	
15	15	001	31	早期	茅山相当	暗褐色	条痕文	石英、スコリア	
15	16	001	35	早期	茅山相当	暗褐色	条痕文	石英	
15	17	001	37	早期	茅山相当	暗褐色	条痕文	スコリア	
15	18	001	41	早期	茅山相当	茶褐色	条痕文	スコリア	
15	19	001	43	早期	茅山相当	暗褐色	条痕文	スコリア	
15	20	001	46	早期	茅山相当	茶褐色	条痕文	石英、スコリア	
15	21	001	48	早期	茅山相当	暗黄褐色	条痕文	スコリア	
15	22	001	58	早期	茅山相当	茶褐色	条痕文	スコリア	
15	23	001	59	早期	茅山相当	茶褐色	条痕文	スコリア	
15	24	002	1	早期	茅山相当	黒褐色	条痕文	石英、スコリア	
15	25	003	9	早期	茅山相当	暗褐色	条痕文	スコリア	
15	26	003	13	早期	茅山相当	黄暗褐色	条痕文	石英、スコリア	
15	27	003	16	早期	茅山相当	茶褐色	条痕文	石英、スコリア	
15	28	003	17	早期	茅山相当	暗黄褐色	条痕文	スコリア	
15	29	003	18	早期	茅山相当	茶褐色	条痕文	石英、スコリア	
15	30	003	25	早期	茅山相当	茶褐色	条痕文	石英、スコリア	
15	31	003	27	早期	茅山相当	暗黄褐色	条痕文	スコリア	
15	32	表彩	1	前期	黒浜	明褐色	胴部に縄概なRL縄文	繊維	内面口唇部直下に1条の沈線
15	33	001	36	早期	茅山相当	黒褐色	条痕文	石英、スコリア	
15	34	001	39	前期	黒浜	茶褐色	RL縄文		
15	35	001	45	前期	黒浜	黒色	肋骨文	繊維	
15	36	001	66	前期	黒浜	明褐色	RL縄文	石英、スコリア、繊維	
15	37	001	40	前期	黒浜	黒褐色	緩やかな波状口縁	スコリア	地文にRL縄文と横走する並行沈線
15	38	001	23	前期	浮島Ⅰ	暗褐色	口縁部直下に山形波状文	石英、スコリア	
15	39	001	30	前期	浮島Ⅰ	暗黄褐色	貝殻条痕文	スコリア	
15	40	001	34	前期	浮島Ⅰ	茶褐色	貝殻条痕文	石英、スコリア	
15	41	001	47	前期	浮島Ⅰ	暗黄褐色	貝殻条痕文	石英、スコリア	
15	42	001	49	前期	浮島Ⅰ	暗黄褐色	貝殻条痕文	石英、スコリア	
15	43	001	19	後期	堀之内	明黄褐色	胴部外面に横走する1条の沈線	石英、スコリア	
15	44	003	15	前期	堀之内	黒褐色	LR縄文		
15	45	003	12	晩期	前浦	暗褐色	地紋のLR縄文と【の】字状沈線の組み合わせ	石英、スコリア	
15	46	001	20			黄褐色		石英、スコリア	底部木葉痕
15	47	001	60			黒褐色		石英、スコリア	底部木葉痕
15	48	001	64			明褐色		石英、スコリア	アンペラ痕をナデ消し
15	49	001	65			黄褐色		石英、スコリア	底部木葉痕
15	50	003	40			暗黄褐色		スコリア、繊維	底部アンペラ痕
15	51	003	41			黒褐色		スコリア	底部木葉痕



第15図　その他の遺物（2）



第16図　その他の遺物（3）

焼土遺構（005）及び一括資料（第４図・16図　図版７）

焼土遺構は南台地点西側発掘区のやや東寄りにあり、発掘区の北壁から直径1.3m、深さ0.2mほどの半円形部分が検出された。焼土内から土師器坏片（8）と砥石（9）が検出されたが、本遺構の壁面に燃焼痕が見られないことから本遺構に伴うというよりも焼土とともに流入したものと考えられる。

また、一括資料として泥めんこ（10）１点も出土している。

第９表　溝状遺構（003）出土古墳時代土器観察表

掲図	No.	遺構	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	遺存度	色調内面	色調外面	混入物	調整内面	調整外面	遺物番号	備考
16	1	溝状遺構（003）	土師器	杯	(16.4)	－	(3.3)	3%	淡赤褐色	淡赤褐色	スコリア、石英	ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	1	
16	2	溝状遺構（003）	土師器	杯	(16.8)	－	(4.3)	3%	濃赤褐色	濃赤褐色	スコリア、石英	ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ後のナデ	1	
16	3	溝状遺構（003）	須恵器	甕	(18.5)	－	(5.3)	2%	灰黄褐色	灰黄褐色	スコリア、石英	ロクロナデ	ロクロナデ	1	
16	4	溝状遺構（003）	土師器	甕	(18.5)	－	(2.6)	3%	淡赤褐色	淡赤褐色	スコリア、石英、長石	ヨコナデ	ヨコナデ後のヘラナデ	1	
16	5	溝状遺構（003）	土師器	甕	－	(7.0)	(2.3)	5%	濃赤褐色	濃赤褐色	スコリア、石英、長石	ヘラナデ	ヘラケズリ後のナデ	1	
16	6	溝状遺構（003）	土師器	甕	－	(7.0)	(2.3)	10%	濃赤褐色	濃赤褐色	スコリア、石英、雲母	ナデ	ヘラケズリ後のナデ	1,1-28、赤彩35	
16	7	溝状遺構（003）	土師器	ミニチュア土器	(2.6)	3.1	3.1	40%	淡黄褐色	淡黄褐色	スコリア、石英、雲母	ナデ	ナデ	1	

第3章　まとめ

旧石器時代

飯土井台遺跡の旧石器時代の石器は下層調査では検出されず、原位置を留めている資料はない。

縄文時代

飯土井台遺跡の縄文時代の遺構は、古墳時代の２号住居跡下から同心円状に並ぶ柱列が検出されており、縄文時代の住居跡の痕跡である可能性もあるが、検証は困難である。出土土器は早期のものが多く、草創期の有舌尖頭器も出土しており、縄文時代の早い段階からこの台地が狩猟などの生活の場として利用されていたことがわかる。

弥生時代

飯土井台遺跡の弥生時代の遺構は、１号住居跡が考えられる。後世の遺構により大半が削り取られているが、底面に木業痕をもつ弥生時代後期の甕の底部が出土している。

古墳時代

飯土井台遺跡の古墳時代は、住居跡２軒（２号住居跡・３号住居跡）と方形周溝状遺構１基が検出されており、いづれも後期の時期に該当する。両住居跡は、検出された範囲が一部であるにもかかわらず豊富な出土土器量であり、方形周溝状遺構の東南角の土坑は赤彩の甕などが出土しており墓坑である可能性が高い。

写 真 図 版

図版 1

飯土井台遺跡南台地点調査前風景(1)

飯土井台遺跡南台地点調査前風景(2)

飯土井台遺跡長谷地点調査前風景(1)

飯土井台遺跡長谷地点調査前風景(2)

1号住居跡（002）

2号住居跡（001）溝状遺構（003）

2号住居跡（001）

3号住居跡（009）遺物出土状況

3 号住居跡（009）

1 号方形周溝状遺構（008）

1 号方形周溝状遺構（008）周構内土坑

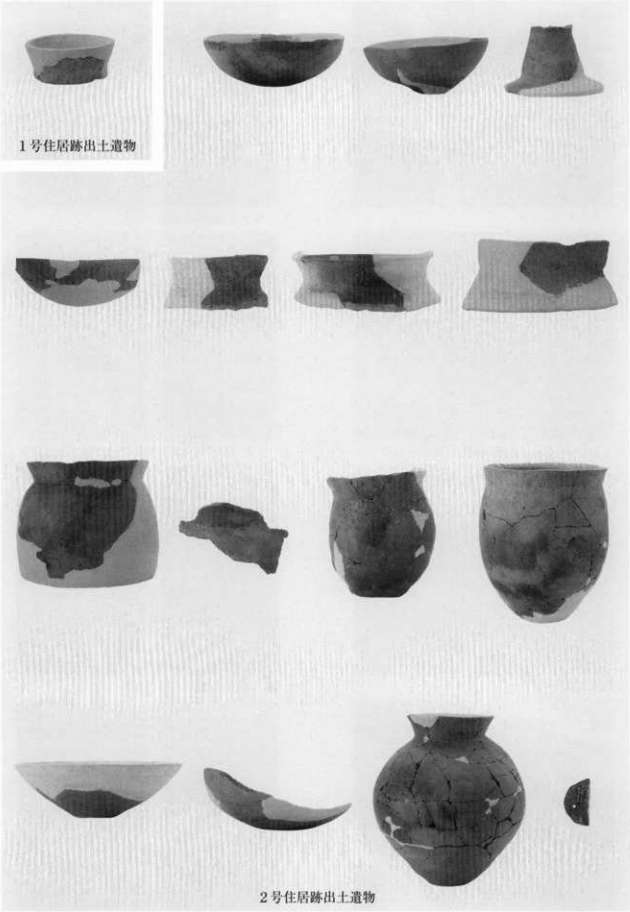
1 号方形周溝状遺構（008）内土坑遺物出土状況

焼土遺構（005）

溝状遺構（003）

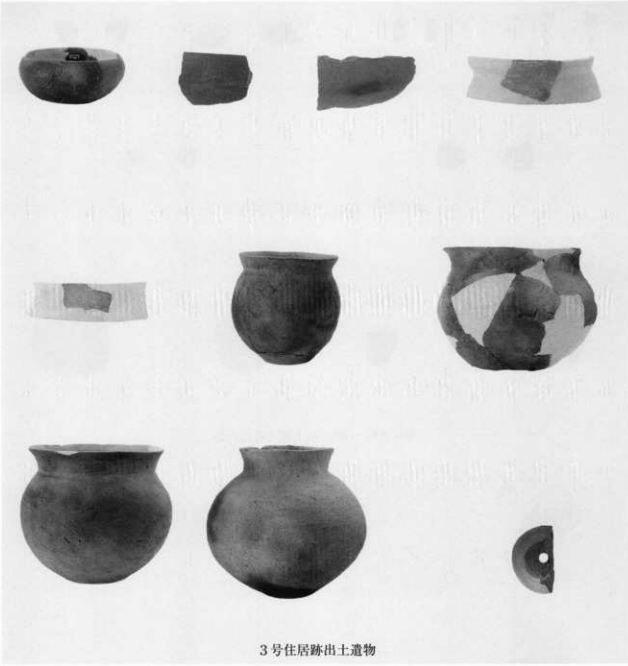
溝状遺構（010）

溝状遺構（011）



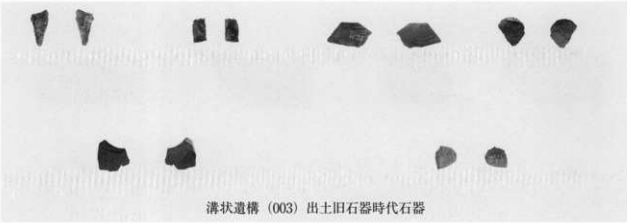
1号住居跡出土遺物

2号住居跡出土遺物



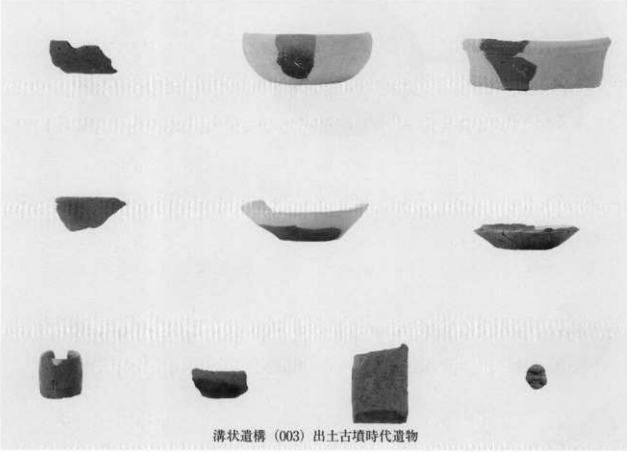
3号住居跡出土遺物

1号方形周溝状遺構出土遺物

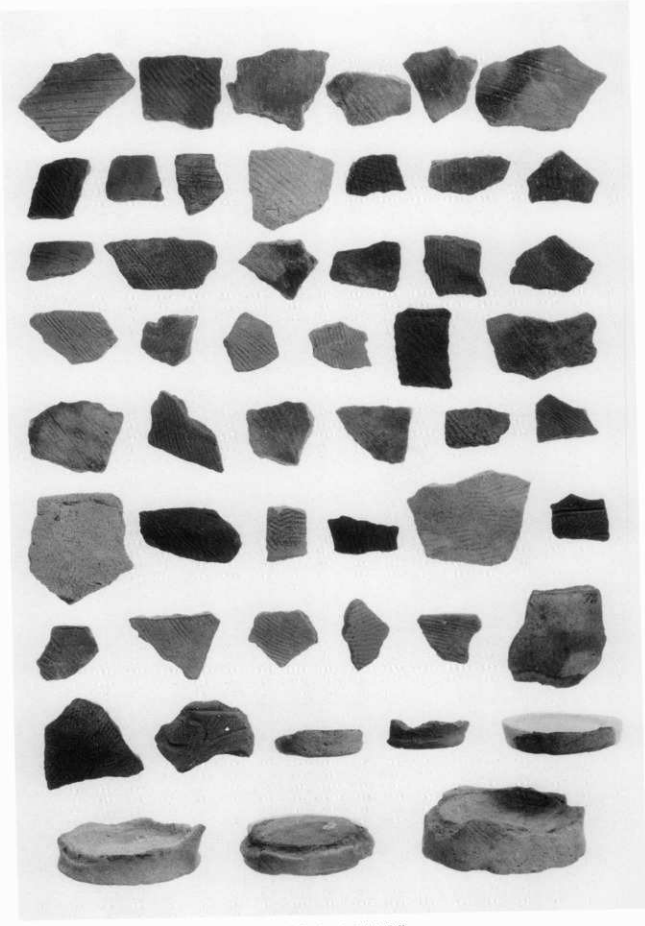


溝状遺構（003）出土旧石器時代石器

溝状遺構（003）出土縄文時代石器



溝状遺構（003）出土古墳時代遺物



焼土遺構（005）出土遺物

報告書抄録

ふ り が な	しゅようちほうどうたこささもとせんまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書　　名	主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書
副 書 名	多古町飯土井台遺跡
巻　　次	4
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第593集
編 著 者 名	石倉亮治・土屋潤一郎
編 集 機 関	財団法人　千葉県教育振興財団　文化財センター
所　在　地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地の2　　TEL　043-424-4848
発行年月日	西暦2008年3月25日

所収遺跡名	所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
飯土井台遺跡	香取郡多古町南中字南台	347	013	35度44分10秒	140度29分6秒	20031001～20031128	1,025㎡	主要地方道多古笹本線改良事業に伴う埋蔵文化財調査
	香取郡多古町南中字長谷	347	013	35度44分7秒	140度24分14秒	20051003～20051014	314㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飯土井台遺跡	包蔵地	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 中・近世 その他	 住居跡 住居跡・溝状遺構 方形周溝状遺構 溝状遺構 焼土遺構	石器 縄文式土器・石器 弥生式土器 土師器・須恵器 砥石・土製品	

要　約	下総台地の中東部、成田国際空港から東南へ7.5kmの位置にある多古町飯土井台遺跡で、平成15年度と平成17年度に発掘調査を実施した。その結果、弥生時代の竪穴住居跡や古墳時代後期の竪穴住居跡、同時期の方形周溝状遺構等を検出した。特に古墳時代の住居跡は、狭い調査面積にもかかわらず豊富な遺物量が認められ、方形周溝状遺構からも墓坑の可能性が高い土坑が検出された。

千葉県教育振興財団調査報告第593集

主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書4

－多古町飯土井台遺跡－

平成20年3月25日発行

編　　集　　財団法人　千葉県教育振興財団
文化財センター

発　　行　　千葉県県土整備部
千葉市中央区市場町1番地の1
財団法人　千葉県教育振興財団
千葉県四街道市鹿渡809番地の2

印　　刷　　株式会社　正　文　社
千葉市中央区都町1丁目10番6号